

理事長との会談（第1回）

日 時：2023年7月4日（火）18：30～19：00

場 所：東かがわ市交流プラザ 第3市民会議室

出席者：法人 檜村恵子理事長 堀川本部長 浅野施設長

組合 船川委員長 江本副委員長 神余書記長 ほか執行部4名

船 川：今日はお忙しい中お時間を取っていただき、組合員一同とても感謝しております。

（出席者紹介）

まず一つ目の質問をさせていただきます。組合（瑞祥会・ルボアユニオン）のことをどう思われていますか。率直にお教えてください。

理事長：そちらのお考えがあつていろいろおっしゃっているなあと、それでその考えにこちらは対応するという感じです。

船 川：おそらく好き勝手に言ってきてというように感じていると思われていると思うのですが、決してそういうつもりはないです。私たちは私たちなりに私たちが働いている職場が良くなってくれたらいいなと思って活動しています。その中で勝手な主張であると思われることを伝えざるを得ない場面もあつたりして、それらに関しては違う風にとられているなあと思うことがあります。また組合がスタートした際に皆さんにお集りいただいたとき、スタートの仕方が稚拙であった点は反省しています。ただ私たちの職場が働きやすくなつたらいいという一心で活動しているということをお伝えできればと思います。一従業員として一生懸命働いているという点は変わりませんので、ご理解いただけるよう面談を申し込ませてもらいました。

二つ目の質問をさせていただきます。組合員、非組合員問わずすべての事業所の従業員から人手が足りないという声が届いています。それを組合として再三お伝えしていますが、「足りないところはあつるが、足りているところもある」という返答があります。おそらく従業員が感覚的に足りていないと訴えていると思われているのかもしれないし、この時間帯に何人必要なのに実際は何人しかいないというような分析ができていないのかもしれないと思います。そこで人手が足りないと思っている従業員に伝えるためにも、人手が足りているという判断される基準をお示しいただきたいと思います。人員の過不足対する基準をお教えいただきたい。

理事長：介護業界だけでなく日本全国他業種も人手が足りない、もちろん介護業界も足りない。これからますます足らなくなる。2040年問題というのをご存じだと思いますが、団塊ジュニアが高齢者になる、それから20年30年はお年寄りが増える。だけどそれを担う職員がいなくなる。子供の数が令和元年に90万人を切り、去年は80万人。3年で10万人も減つた。本当に少子化、それくらい子供の数が少ないので、団塊ジュニアが高齢者になったとき、それを担う職員がいらないということは明白なのです。瑞祥会の場合は先んじて外国人労働者確保に取り組んできています。EPAから始めて留学生、技能実習生、特定技能実習生。国もフィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマーなどいろいろ考えて、外国人労働者を集めているところです。この外国に方たちがいなかったら2、3つのユニットを閉めないといけないと思うくらいです。外国の方はお

金目的で来て、お金を自国へ送るというミッションもあつたりします。外国の方にはずいぶん助けられています。言葉の壁もあります。大変なところもありますが真面目で素直で性格はいいのです。日本人については新卒採用もしています。来年は3人くらい予定しています。努力はしているがなかなかいいです。あと新卒ではない日本人（中途採用）も努力をしている。もちろんハローワーク、人材紹介会社についても高いので考えながら、どうしてもというときは活用しながら人集めに努力しています。

過不足の基準についてですが、ほかの施設のことはわかりません。湊荘のこともよくわかりませんが、湊荘では管理者がきちんと勤務表を組んで、このユニットは何人必要ですと、必要以上はいりませんと、入浴に何人とか見守りが何人とか決めていると思うのです。その決まりごととは人員基準より多いと思うが、その決まりごとができなかったら、例えば職員が復職するまでの間負担をしてもらったり、誰かが休めば代わりがないので、電話するなどして出てきてもらいやりくりしている。また、同じショートステイであれば、比べてみて何人で回せるというのがあるのかもしれませんが。突き合わせをしていないので湊荘では何人でこうすると決めています。ほかの施設のことは十分把握していません。どこも外国人採用でつないでいっているという現状です。これから外国人の方を大事に育てていってほしい。そういうスキームも構築しながら、外国人を育てられないところは日本人も育てられないでしょうと私は思います。またこの頃Z世代とか言いますが、こちらが折り合わないの後姿を見て学べと言ってもなかなか難しい。教える方が折れながら何回も言ってあげ、気長に育てるしかないかなと思います。

今外国人が入っていないところもあるが少しずつ入ってくるので、その時はよろしく願います。

船 川：これまでに何回も話をしてきたことだと思います。あと対象者のレベルを事業所ごとに把握して決定していければよい、事業所のタイムスケジュールに合わせてここに何人、ここには何人と決めていければということですね。よく理解できました。私の母親の職場でも外国の方がいて、いい子たちばかりで、基本的には一生懸命であると言っていました。先ほど理事長がおっしゃったとおり、国へお金を送るミッションを一生懸命しています。それも知っているので、皆さん指導していってくれると思います。組合としては前からお伝えしているが、外国人だけでなく日本人にも来てくれるような法人であってほしいと思っています。

最後に今回理事長と組合という立場として初めてお会いする機会を得たことについて、とても大きな反響がありました。そこでもう一回お会いする機会を頂戴できないでしょうか。できればそのときには来年度の経営計画などをお話しいただき、それを伺ったうえで労働条件の要求項目などを作成したいと考えています。そういうところを全く知らないままに要求しているので、大きいずれが生じて、なかなか埋まらないということになっていると思います。春は、ほかの組合にはないくらい何回も何回も団体交渉を申し入れさせてもらっているということもあります。冬にもう一回会談の申し入れをしたいと思います。前向きに検討していただけたら幸いです。

組合員からの声を書面にまとめたものを渡し終了となる。